

2月24日（火）草津市立草津第二小学校を訪問しました！

対談テーマ

どの子ども居場所がある学校づくり

第6回の対談では草津市立草津第二小学校を訪問しました。草津第二小学校にある登校支援室を見学させていただき、子どもたちと交流させていただいたり、草津市の取組、草津第二小学校の状況について意見交換を行ったりしました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 塚本 晃弘 委員
窪田 知子 委員 森 和之 委員

学校からの説明・校内見学



登校支援ルームの見学では、子どもたちだけでなく、登校に付き添う保護者の方とも話をさせていただきました。保護者の方からは「この部屋があるおかげで、子どもが安心して学校に通えるようになってきていると感じる」というお話を伺いました。また先生方からは、登校支援ルームの活用によって子どもが良い方向に向かってきているという効果が報告されているとの説明がありました。

意見交換より



委員：登校支援ルーム等を利用できていない等、支援が行き届きにくい子どもたちや御家庭に対してはどのようなアプローチをされているのでしょうか。

市教委：学校からどの家庭にも、継続的に情報を伝えるという

働きかけは常に行っており、学校または関係機関等とつながりがない家庭は現在ありません。その点は学校も草津市教委も様々な工夫をしています。しかし家庭によって考え方は様々で、同じ状況にあっても一方では困り感がない家庭もあります。そのような家庭に対してのアプローチは非常に難しいと感じています。

委員：学校を見学させていただき、自分の小学校時代を思い出しました。私自身は「学校が楽しい」と感じ、毎日登校していた記憶があります。草津第二小学校でも、子どもたちが「学校が楽しい」と感じられるよう、皆さんで努力されていることを実感しました。過去に草津市の不登校率が高かった原因や、それが改善された背景はどこにあると分析されていますか。

市教委：草津市全体を見ると非常に転出入の数が多いため、地域との繋がりや保護者同士の繋がりが希薄になるという背景はありました。その背景や課題に対応し、子どもたちが安心できる学びの場を確保するために、登校支援ルームの設置に取り組みました。ただ、部屋だけあれば良い訳ではなく、子どもたちが「いつ来ても受け入れてもらえる」という体制が必要です。不登校に関する数値のみにとらわれず、どれだけの子どもたちが学校や教室に戻れたのかを大切にしたいと思っています。



学 校：保護者同士の繋がりはまだ少ないですが、徐々に確立されていると感じます。登校支援ルームを活用する保護者も月2回程度、座談会を開催されています。教育長が参加されたこともあります。問題の解決というよりも、自分の悩みを共感してもらえたということで、保護者の方が安心されたと聞いています。

学 校：小学校中学年の頃にしんどさを感じる子どもが多いようです。自分自身のしんどさを伝えられる力が身に付く時期だからだと思います。登校支援ルームを利用する子どもたちは、そこでエネルギーを溜めて、教室で頑張って学習しています。子どもたち一人ひとりに対応しながら、その子どもが教室に戻る力があるのか、登校支援ルームを活用することが効果的なのか、他の選択肢があるのか等を常に考え、必要に応じて他機関にも繋ぐようにしています。登校支援ルームで子どもたちと関われるよう、授業の持ち時間など配慮してもらっていますが、教員の数足りないという課題は抱えています。どの教員も安心して働ける職場環境づくりを、これからも進めてほしいと思います。

委 員：子どもたちの状況が好転するまで、どのくらいの時間がかかりますか。また、一度好転した状況が再び悪化するということはあるですか。

学 校：短期間で教室に戻る子どもは、友だち同士のトラブル等の具体的な原因があることが多いです。しかし、不登校の背景は様々なので、はっきり何が原因なのか分からないことも少なくありません。好転した状況が、進級など状況が変わることで悪化することもあります。しかし、教室に戻るまでの期間は年々短くなっていく傾向があると思います。